

水田酪農の規模拡大に関する考察

坂 梨 鷹 元

(九州農業試験場)

SAKANASHI, T.

Study on the Farm Business Size of Dairy Farms in the Paddy Field Area.

一般に水田酪農の多頭化は経営面積との関連が強いといわれており、現実には多頭化は経営面積の大きな農家によって担われている傾向がある。しかしながら同時に又同一経営面積の中でも経営方式の相違や給与飼料構成などの相違により飼養頭数にかなりの分散がみられるのも事実である。本報告ではこれらの諸形態の中から経営面積を異にする二つの農家を対象として(飼養頭数は夫々12頭)酪農部門の収益性と飼養技術について聴取り調査を行った。調査農家は福岡県大川市周辺の農家で水田面積2.0ha、乳牛飼養頭数12頭(成牛)のA経営と水田面積が0.48haで乳牛飼養頭数12頭(成牛)のB経営である。(第1表)

第1表 経営概況

(S, 45, 3, 31現在)

	家族労働力		林地(アール)		乳牛		飼料生産量(kg)	建物・施設	機械器具	
	男	女	田	畑	成牛	仔牛				
A	1	2	200 (140)	-	200	12	2	イタリオン 111,000 青刈玉蜀黍 7,500	サイロ2, 牧機、給水 施設、尿溜	ミルク、カッター 耕耘機、トラック
B	1	-	48 (48)	-	48	12	3	イタリオン 62,000	牧機、給水 施設、尿溜	ミルク、カッター トラック、冷蔵庫

註) ()は裏作飼料作付面積

調査結果と考察：搾乳牛頭数がほぼ等しい場合でも酪農部門所得に大きな格差がみられる。

第2表 酪農部門収支 (S, 44, 4-45, 3) (円)

	粗収入(円)			支出(円)					所得 (円)-(1)	
	乳代	その他	計	飼料費	償却費	保険衛生	その他	乳販手数料		
A	1,832,036 (3,565)	117,500	1,949,536	571,098	360,291	151,000	204,190	99,348	1,385,907	563,609
B	2,038,589 (4,000)	353,500	2,392,089	536,230	291,557	83,860	103,210	108,842	1,123,699	1,268,390

註) ()は搾乳中1頭当り産乳量(kg)

第2表のようにB農家では少ない生産費用で多くの粗収入を上げているのに対してA農家では多くの費用を要しているにもかかわらず粗収入は低い。粗収入と費用におけるこうした関係が両者の所得格差を顕著なものにしている訳であるが、以下粗収入、費用の内容並びに飼料給与について整理してみる。

(1)粗収入、牛乳販売額、仔牛販売額、乳牛増殖見積額などいずれもB農家が多くなっている。特に粗収入構成の主要項目である牛乳販売額における格差はB農家では乳量の絶対量が多いことに加え、7月～

9月にかけての高乳価時期における乳量が多いことが強く作用している。(この時期における格差は約28万円に達している。)

(2)生産費用 A農家の場合、自給飼料生産のための種苗費、肥料費、その他の飼料生産費用は当然大きくなると考えられるが、購入飼料費、保検衛生費においても多い。牛乳販売手数料を除く費用合計でB農家に比べ26万円も多い。

(3)飼料給与 自給飼料生産は両農家とも水田裏作利用であるが、その生産並びに給与状況をみるとA農家ではイタリオンを115アール、総収量は約111kg、青刈玉蜀黍を25アール、総収量は約7.5kgであるのに対してB農家はイタリオンを48アール、総収量は約62kg、その他提塘野草を約22kgと野菜市場残渣物を給与している。飼料生産量は土地面積の大きなA農家が量的に優っているが、その給与体系をみると時期別に不均衡が著しく特に9月から初冬にかけて涸渇し購入飼料への依存度を高める結果となっている。これに対してB農家ではこの時期に常時野草、野菜市場の残渣物を給与していることが特徴として上げられる。このような給与体系の相違が搾乳量の格差をもたらす一要因として考えられる。このようにA農家は自給飼料生産量が多いにもかかわらず、その給与体系をみると時期的に片寄りがあるため、それが購入飼料の節減という形に結びついていない。以上、A農家の酪農部門の低所得要因は乳量水準が低い反面、生産費用が多額に及んでいることにある。即ち自給飼料生産と購入飼料との関連性が乏しく費用節減に役立っていないこと、次に飼料給与を年間通してみると養分摂取量においてはD C Pが約180%、T D Nでは100%未満であり、季節別にみると9月～12月にかけて著しく低下し泌乳能力の低下、種付不良等をまねき直接産乳量を低めている。